

サブミッションポートによるメールサーバの運用について

佐々木 康俊

工学系技術支援室 情報通信技術系

概要

Postfix メールサーバソフトでサブミッションポート(submission port)を利用したメールサーバの運用について報告する。

現在、名古屋大学では、学内のメールサーバに対しては「迷惑メール」の不正中継を防止するため、学外からのメールは原則として、「メール配送サーバ」を経由して受信し、25 番ポートには学外からの中継が制限されている。

今回は不正中継が少なくなることが期待されるサブミッションポートでのメールサーバの運用を試みたので、その導入や設定方法について報告する。

今回のサーバは OS は Linux, メールサーバソフトは Postfix を用いた。また、サブミッションポートを設定するため、例えばメールスプールを mbox 形式から Maildir 形式に変更したので、その周辺的な導入や設定方法についても報告する。

1 はじめに

NICE では、「迷惑メール」の不正中継を防止するため、2000 年 9 月 4 日以降、学外からのメールは原則として、「メール配送サーバ」を経由して受信するようになった。NICE のファイアウォールでは指定されたメールサーバ以外は学外からのメール受信 (smtp 接続) を遮断している。しかし、このファイアウォールの smtp 通過登録の申請を行い、許可されれば、学外からの smtp 接続を直接受けることは可能にはなる。

今回は smtp の通過申請をする方法ではなく、不正中継が少なくなることが期待されるサブミッションポートでのメールサーバの運用を試みた。

2 サブミッションポートで運用するために必要なメールサーバ環境設定

サブミッションポートによるメールサーバを運用するために必要なアプリケーションをインストール並びに設定をする。以下に個々のアプリケーションを紹介していく。

2.1 メールサーバの停止

メールサーバの電子メールを保管しておく spool ディレクトリを変換する作業を行うので、これが終わるまでの間は、新しい電子メールをこのサーバで受けとらないようにするため、電子メールサービスを停止する。

2.2 spool ディレクトリの変更 mbox から Maildir 形式への変更

今回設定したメールサーバはこのサーバ宛に送信された電子メールを蓄積しておくメールスプールディレクトリは各ユーザを全て一括して同一ディレクトリに保存する mbox 形式であったため、各ユーザ毎にそれぞれのホームディレクトリに蓄積する Maildir 形式に変更した。それは「perl-TimeDate」という日時情報を解析する perl スクリプトと spool ディレクトリを変換する perl スクリプト「mb2md」を各々ダウンロード

ド、インストールする。変換方法は各ユーザ毎に各ユーザの権限で「mb2md -m」コマンドを入力すると各ユーザの以前のメールが/Maildir ディレクトリー以下に maildir 形式に保管される。

2.3 新規ユーザ追加時のための設定変更

Linux では新規ユーザを追加するときに、/etc/skel 以下のディレクトリーと同じものをユーザのホームディレクトリーに作成する。メールサーバに新規ユーザを追加した時にも、maildir 形式に対応させるために、/etc/skel ディレクトリーの下に Maildir ディレクトリーを新たに追加した。

2.4 SMTP-AUTH(メール送信時のユーザ認証)の設定

メールサーバに電子メールの送信を依頼してきたユーザに対してパスワード認証を要求し、認証できた場合はメールを転送することを可能にするために SMTP-AUTH の設定を行う。Postfix で SMTP-AUTH を利用するために cyrus-sasl パッケージをインストールする。

2.5 メールサーバの設定変更

Postfix の main.cf ファイルを編集して、SASL 認証等メールサーバの設定を変更する。

2.6 pop3/imap サーバの設定変更

dovecot の設定ファイル dovecot.conf ファイルを編集して、同様に pop3/imap サーバの設定を変更する。

2.7 Postfix SMTP サーバで SASL 認証をテストする

メールサーバに接続し、SASL 認証が動作することを確認する。

2.8 ユーザ毎に SASL 認証パスワードを作成する

SASL 認証のための各ユーザのパスワードを saslpasswd2 コマンドで作成する。

この登録されたユーザは sasldblistusers2 コマンドで確認できる。

```
sasldblistusers2
```

```
smtpsender@ yyyy.zzzz.nanchate-u.ac.jp: userPassword
```

2.9 各ユーザの電子メール環境の設定変更

メールサーバのサブミッションポートを利用するため、各ユーザが利用しているパソコンの電子メールソフトの送信メールのポート番号をサブミッションポートの番号に変更する。

3 まとめ

SMTP 転送が制限されていても、メールサーバでサブミッションポートを利用して送信することにより電子メールの送信が可能になった。しかし、SMTP 送信との違いは、各ユーザの認証をパスワードで行っていることです。このパスワードが第三者にも利用されるようになれば不正中継を防ぐことは出来ません。この点は注意して運用する必要がある。

参考文献

- [1] 名古屋大学情報連携統轄本部, 情報セキュリティ, ユーザ向け情報, 管理者向け情報, メールサーバ設置に関する注意(<http://www.icts.nagoya-u.ac.jp/>).
- [2] 名古屋大学 学内専用, NICE に関する情報, メールサーバ登録の手引き, SPAM メール対策の概要, メールサーバの登録手続き(<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/internal/NICE/smtpgw.html>).
- [3] Vine Linux 4 で SMTP-AUTH や IMAP を利用しよう, spool ディレクトリの変換,

(<http://tsuttayo.jp/postfix/imap/>).

- [4] asterisk, Service/Postfix, mb2md で変換(<http://wiki.mmj.jp/index.php?Service%2FPostfix#ke8cf8dc>).
- [5] 鶴長 鎮一, et al, “今どき Postfix 指南”, Software Design, 2008 年 8 月, P20-29.
- [6] 一戸 英男, “図解でわかる Linux サーバ構築・設定のすべて”, 日本実業出版社, 2005 年 4 月.
- [7] /etc/skel でユーザーディレクトリの雛型設定, Total Web Debelopment ARTSNET, (<http://www.artsnet.jp/archives/482>).
- [8] Postfix SASL how, Postfix SMTP サーバで SASL 認証をテストする, (http://www.postfix-jp.info/trans-2.3/jhtml/SASL_README.html).